

「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」公開ワークショップ

最期まで自分らしく生きる —本人の意思決定を支援するツールとその活かし方—

1. 開催概要

- (1) 日 時：平成 27 年 8 月 18 日（火）13：00～17：00
- (2) 場 所：東京大学 本郷キャンパス 工学部 11 号館 1 階講堂
(東京都文京区本郷 7-3-1、最寄駅 東京メトロ南北線 東大前駅)
アクセスマップ http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html
キャンパスマップ http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_12_j.html
- (3) 参加者：100 名程度（参加費無料、事前登録制、申込多数の場合は抽選）
- (4) 申込方法：<http://www.ristex.jp/korei/03event/workshop2/receipt.html> をご覧ください。
- (5) 主 催：国立研究開発法人 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」研究開発領域
<http://www.ristex.jp/korei/index.html>

2. 開催趣旨

高齢化が進む日本において、長い高齢期の中で人生の最期をいかに締めくくることが、大きな課題となっています。「人生の最終段階」に向けてその人らしく生きるために、本人・家族だけが考えるのではなく、地域全体がどのように関わっていけるかが、改めて問われています。高齢になるほど、身体機能・認知機能の低下が避けられない中で、生活の質を維持・向上させるために、わたしたちは今、何ができ、何をすべきなのでしょう。

これまで「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」研究開発領域の中で、地域在住の高齢者の意思決定支援に取り組む 2 つのプロジェクトが、異なる視点から研究開発を進めてきました。ひとつは「当事者本人が元気なうちから人生の最終段階を考え対話することを促す」ツール、もうひとつは「医療者をはじめとした支援者が認知症ご本人の意思を可能な限り汲み取り、本人らしい意思決定を支える」ツールです。両プロジェクトはアプローチにこそ違いはありますが、いずれも人生の最終段階に向けて本人がよりよく生きるための方策を、関係する人々の対話を中心として考えている点で共通しています。

これらの取り組みを題材に「医療・ケアを含めた文化、社会の両面から、よりよい生のための意思決定を支える上でそれぞれの立場から何ができるのか」について、多様な参加者のもと、「意思決定支援」に関する議論を深めることを目指します。同時に、それぞれの立場から課題と意思を持ち帰っていただき、地域での対話につなげていただきたいと思います。

本人にとっての最善をサポート
するってどうすればいい？
自分らしい生き方って何だろう？



わたしたち、ひとりひとりにできることは？
何を伝えたい？伝えられる？

医療・ケアの専門家としての思い
(専門知識、責任、法など)

当事者としての思い
(QOL、価値観、文化、歴史)



3. 開催形態・参加者

「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」領域関係者、招聘参加者と一般参加者（事前登録制：100名程度）によるオープン形式で実施し、多様な声を汲み取ります。招聘参加者は医療、介護、法、宗教、倫理等の有識者・実践者、認知症当事者を予定しています。

4. プログラム

※プログラムは暫定版です。随時更新しますのでWeb (<http://www.ristex.jp/korei/index.html>) をご覧ください。

一般参加者へ事前のお願い：

参加いただくことが確定しましたら、アンケートをメールにて送付いたします。アンケートは事前にメールにて返送くださいますようお願いいたします。

12：30 開場・受付

13：00－13：05 開会の挨拶

13：05－13：15 ワークショップの目的について

秋山 弘子（領域総括／東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授）

13：15－13：30 人生の最終段階に向けた意思決定を巡る社会の動向

袖井 孝子（領域アドバイザー／お茶の水女子大学 名誉教授）

13：30－14：40 意思決定を支えるツールの紹介

ファシリテーター

秋山 弘子（領域総括／東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授）

「心積りノート」

清水 哲郎（研究代表者／東京大学 大学院 人文社会系研究科 特任教授）

「認知症の方の意思決定支援マニュアル」

成本 迅（研究代表者／京都府立医科大学 大学院医学研究科 精神機能病態学 准教授）

質疑応答・意見交換

14：40－15：00 休憩

15：00－16：50 ディスカッション

ファシリテーター

永田 久美子（領域アドバイザー／認知症介護研究・研修東京センター 研究部 部長）

テーマ1：本人を中心にした意思決定支援のあり方

テーマ2：コミュニティでこれらのツールをどう活用するか

フロアとの対話

16：50－17：00 ワークショップを振り返って

大島 伸一（領域アドバイザー／国立長寿医療研究センター 名誉総長）

※ワークショップ終了後に意見交換、名刺交換の時間を30分程度予定しております。